



小学校6年生の保護者のみなさまへ

～「令和6年度全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチ」の結果について～

河内長野市立天野小学校

《基本的な考え方》

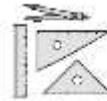
全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析を行い、教育施策の成果と課題の検証及びその改善を図ること。また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としています。

またすくすくウォッチは、子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章、情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取り組みです。

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ること、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

今年度は、全国学力・学習状況調査とすくすくウォッチの結果と分析を提供いたします。

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



令和6年度 全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの分析

学力・学習状況調査の概要

河内長野市立天野小学校 6年生

国語

設問番号	学校の平均正答率
1一	48.0
1二(1)	92.0
1二(2)	44.0
1三	64.0
2一(1)	76.0
2一(2)	76.0
2二	36.0
2三 ア	32.0
2三 イ	68.0
3一	48.0
3二(1)	88.0
3二(2)	72.0
3三	76.0
3四	72.0

算数

設問番号	学校の平均正答率
1(1)	68.0
1(2)	92.0
2(1)	52.0
2(2)	56.0
3(1)	80.0
3(2)	80.0
3(3)	20.0
3(4)	68.0
4(1)	56.0
4(2)	56.0
4(3)	32.0
4(4)	44.0
5(1)	84.0
5(2)	60.0
5(3)	44.0
5(4)	44.0

概要

目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりして自分の考えと結び付ける問題がたくさんありました。思考力、判断力、表現力において、読むことの問題が高い正答率でした。しかし、書くことは、低い正答率でした。問題形式でみると、選択式の正答率は高いものの、短答式や記述式に課題が見られました。

特に成果が見られた問題例

- ・話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題。
- ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。
⇒要約・要点・要旨を文章にする活動を取り入れていきます。また、文章を書く際に字数制限をつくり、漢字を使うようにします。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかを見る問題。
⇒文を読む際には、主語と述語を矢印でつなぐなど、文の中の関係を意識させるようにします。

概要

「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の各領域から、5年生までの内容が出題されています。学習指導要領の領域で見ると、正答率は数と計算が高いですが、「図形」と「変化と関係」は低いです。ほとんどの問題において文章をよく読み、見通しもって問題に取り組む力に課題がある結果になりました。

特に成果が見られた問題例

- ・数量の関係を、□を用いた式に表す問題。
- ・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題。
- ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・直径2cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題。
⇒問題を図に表したり図に書き込んだりして考える活動をしします。
- ・わる数が小数のわり算の問題。
⇒定期的に反復練習をしします。
- ・表を読み取り、必要なデータを取り出して、分類整理する問題。
⇒読み取りに必要な言葉を、教科を越えて日頃から使うようにしていきます。

すくすくウォッチ理科

設問番号	学校の平均正答率
①(1)	30.8
①(2)	76.9
①(3)	69.2
①(4)	30.8
①(5)	69.2
②(1)	69.2
②(2)	69.2
②(3)①	57.7
②(3)②	38.5
②(4)①	76.9
②(4)②	50.0

概要

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」についての出題がありました。平均正答率は、「エネルギー」の領域では61.5%、「粒子」の領域では69.2%、「生命」の領域では75.0%、「地球」の領域では、30.8%でした。問題形式別に見ると、選択式では60.3%、短答式では73.1%、記述式では34.6%でした。

特に成果が見られた問題例

- ・簡易検流計の正しい使い方について理解する問題。
- ・電磁石の磁力を強くする方法について考えて、書き表す問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・太陽の沈む方角について理解する問題。
- ・振り子の周期は振り子の長さによって変わることを理解し、正しく実験を行うための条件を考える問題。
⇒実験や観察を授業で行った後、日常生活に結び付けて考えさせます。例えば、太陽の沈む方角については、登校したときと下校するときの太陽の位置に注目させるなど、その単元を学習した際に声かけを充実させていきます。

(無解答率について)

各教科における無解答率については、記述問題で高くなる傾向が見られました。どのように書けばよいか分からない児童が多かったと思われるとともに、記述問題では書かれている内容を適切に理解し、整理する力が求められます。無解答率を下げるためにも、授業の中で『間違ってもよい。』という意識や、どんな解答も認められるという気持ちを持たせることで、自信を持って解答する児童が増えるように取り組みたいと思います。

すくすくウォッチ (教科横断的な問題わくわく問題)

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	65.4
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	56.9
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	69.2
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	70.5
E 興味関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	73.1

概要

児童にとって身近な「自転車」を題材とし、文章を読んで視覚的なイメージをとらえる力、日常的な場面の中で算数的な能力を使って問題を解決する力、自分を取り巻く諸課題を発見し解決する力を問う問題や、「ダンス」を題材とし、物事の整理の仕方や、複数の資料を読み取り論理的に思考する力を問う問題、資料を分類・整理し、相手にわかりやすく伝えるための工夫を考え表現することを目的とした問題、日本の伝統的食文化の一つである「すし」を題材とし、種々の資料から読み取りそれに基づいた思考を問う内容で、郷土の特徴的な食文化とその伝統の維持への関心を高める問題が出題されました。

特に成果が見られた問題例

- ・資料を読み取り、内容を関連付けて、視覚的なイメージをとらえる問題。
- ・資料の情報を整理して思考する問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

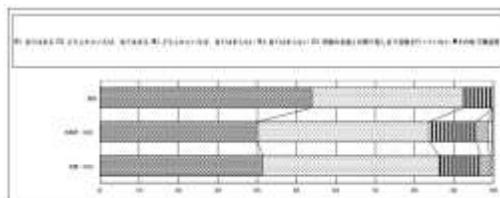
- ・資料の内容を関連付けてそれをもとに自分の考えをまとめたり、意欲的に工夫したりして相手に伝える問題。
⇒読み取りに必要な言葉を、教科を越えて日頃から使うようにしていきます。

学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの概要

児童アンケート

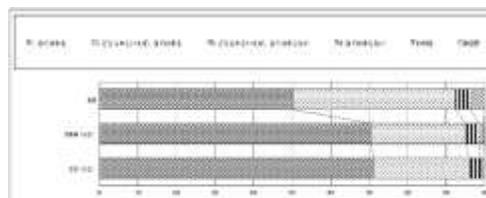
特に成果が見られた項目

33. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



特に課題が見られた項目

15. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



概要

目標にむかって頑張る力、人と関わる力、気持ちをコントロールする力、好奇心についてアンケートがありました。また、学校の様子や、授業での様子、授業以外の様子や学校以外の様子についても項目がありました。

特に成果が見られたアンケート項目例

「33. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」という項目に当てはまる児童が多かったです。普段から話し合う活動を積極的に行い、自分の意見を相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりして、自分と相手の考えを進んで比較していることが考えられます。

特に課題が見られたアンケート項目例

「15. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という項目では、「当てはまる」児童が大阪府や全国の結果と比較して低い結果が見られました。「どちらかといえば、当てはまる」も含めると大阪府や全国の結果との差異はあまりありませんが、進んで人の役に立ちたいと思う気持ちの育成が必要だと感じました。

<その他のアンケート結果より抜粋>

良かったところ

- 学校に行くのは楽しいと感じている児童が多いです。
- 毎日同じ時間に寝たり起きたり、規則正しい生活をしている児童が多いです。
- 人が困っているときに進んで助けられる児童が多いです。
- 朝食を毎日しっかりと食べてきている児童が多いです。
- 家の中にその日の出来事を家の人に伝えている児童も多く、家庭環境が整っています。

課題として見られたところ

- 将来の夢や目標を持っていない児童が多いです。
- 国語や算数などの勉強を大切だと思っていない児童が多いです。
- 理科に対して苦手意識を感じる児童が多いです。
- 英語の勉強を大切だと感じていない児童が多いです。

結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと



◎読み書きを中心とした授業づくり

- ・自分の考えをノートに書いたり、授業の終わりにはふりかえりの時間を確保し、自分の思いや学んだことをまとめて書く活動を入れます。
- ・故事成語やことわざなど、分からない言葉が出てきたときに辞書を活用するようにします。特に説明文や物語文などでは、単元の初めに意味調べの時間を確保します。
- ・毎週金曜日の朝学習の時間を読書タイムとして設けています。この時間を活用して読書量の向上を図りたいと思います。また、音読に積極的に取り組み、読むことの楽しさを感じられるような取り組みを行います。

◀ 授業では ▶

- ①場面に応じて具体物を使って作業をさせながら考えさせる授業を意識します。
- ②算数科では、計算の仕方だけを理解するのではなく、筆算の意味を理解させながら正答を導き出せるようにします。
- ③図やグラフ・表から情報を読み取ったことをもとに自分の考えを持ち、表現できるようにします。
- ④授業の中で単に知識・技能を理解させるような授業ではなく、理解したことを活用して考えを説明する力をつける内容を取り入れるようにします。
- ⑤児童一人ひとりが、見通しをもてるように、授業の流れや勉強の計画を共有します。
- ⑥理科では、授業で学んだことを普段の生活の中でも意識できるように声かけを行います。

《 個々のつまずきの発見 》

学力テストの結果を受けて、個々の児童がどのような分野を苦手だと感じているのか、苦手だと感じる分野にどのような傾向が見られるのかを発見する必要があると感じました。タブレット教材のEライブラリなどを活用し、苦手な分野の発見をしたり、苦手だと感じる分野でのフォローをします。

《 学習意欲の向上 》

児童の学習意欲を引き出すために体験型学習など、成功体験を味わえるような活動を工夫し、主体的に自ら進んで学ぶことができるように、タブレットや本を活用した調べ学習を行い、それらから探究活動へつなげていきます。

《 複数の資料を関連させて問題を読み取る活動 》

算数の文章題や、理科の問題、社会の資料などでは、複数の資料を読み取る力が必要となります。また、読み取った内容を関連付けながら自分の考えを持つことが大切です。そのためにも、国語科を中心として内容を読み取る力をつけたり、日常の身の回りで起こる社会の話題にも興味をもちながら、読解力を上げるために新聞ワークシートを活用したりして、複数の資料と関連付けながら自分の考えを書く活用に取り組みます。

(2) 児童のみなさんへ



《 家庭学習の取り組み 》

毎日の家庭学習の時間を確保し、宿題や自主学習を計画的に行いましょう。その際に、特に苦手な教科や分野に時間を使うようにすると、基礎学力の向上につながっていき、応用問題にもチャレンジできるようになります。

《 読書、音読の取り組み 》

図書館や図書室を積極的に利用し、幅広いジャンルの本を読みましょう。また、声に出して本を読むことは、理解力や語彙力の向上につながります。音読することで文章の流れや意味が頭に入りやすくなるので、音読の宿題の際にはそのことを意識して積極的に取り組むようにしましょう。

《 質問や相談をする 》

学習内容で分からないことがあれば、学校の先生やお家の人に積極的に質問しましょう。分からないことを質問することは、恥ずかしいことではありません。むしろ分からないことをそのままにしていると、その先の勉強で必ずつまずいてしまいます。

◀ 聞く力について ▶

聞くことは、とても大切な力です。聞く力を身につけることにより、説明や会話の中で話題になる言葉や内容に意識的に触れることができ、話の流れが予想しやすくなります。しかし、聞く力は、急激に身につくものではありません。『最後まで聞く、相手を見る、理解する』 そのために普段から聞く練習をし、少しずつレベルアップしていきましょう。

◀ 自分で調べる習慣をつける ▶

わからない言葉が出てきたときは、辞書を引くという習慣をつけましょう。また、故事成語や四字熟語の本などに関心を持ち、日常生活の会話の中で使ってみるようにしましょう。

(3) 保護者のみなさまへ向けて



◀ 生活リズムを整える ▶

お子様にとって、生活リズムは学習を行う上で最も大切な要素のうちの一つです。規則正しい生活リズムを保ち、十分な睡眠をとることを心がけましょう。また、健康的な食事を心がけ、集中力を保てるようにしておきましょう。

◀ 計画的な学習の実践 ▶

日々の学習内容について、確認・管理がしやすいように学習計画表を作成してみるのも一つの方法です。その際に、お子様と相談したうえで、達成可能な計画を作成してみてもいいでしょうか。

◀ 読書に親しむ習慣づくりを ▶

読書をすることにより、新しい情報や知識を得ることができます。これにより、自分の理解や見解を広げることができます。また、読書によってさまざまな単語や表現に触れることで、語彙力や表現力が向上します。お子様には、その子に合った本を選ぶことをお勧めします。年齢や話題を基準とした本が、常にその子に合うとは限りません。興味関心がある本をきっかけに読んでいくと、「読む力」が高まります。「読む力」がついてくると、いずれ文字数が増えたり、専門的な本を選んだりするようになります。いろいろな本を自然と読めるようになると、生活力、学力ともに自立へと進んでいきます。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援をいただきながら、大切なお子様を保護者のみなさまとっしょに育てていきたいと思っております。今回の結果を参考にさせていただいて、ご家庭でも今後のことについて、お話していただくと幸いです。よろしくお願いたします。